

日本原子力学会 核燃料部会  
平成 31 年度第四回運営小委員会議事録

日時 : 令和 2 年 2 月 12 日 (水) 13:30~16:30

場所 : 日本原子力学会事務所 会議室

出席者 : 宇笠部会長、加藤副部会長、草ヶ谷副部会長、天谷委員、尾家委員、川西委員、黒崎委員、篠原委員、島田委員、園田委員、谷口委員、原田委員、樋口委員、松本委員、山内委員、柳沢委員、渡部委員、大堀 (記)

## 議事

### 1. 前回議事録等の確認 (資料 1)

大堀から、前回 (平成 31 年度第三回) 運営小委員会議事録を紹介した。事前にメールにて確認済みである旨紹介し了承された。

また、大堀から、所属機関の内規等において委員任期が定められている場合は、改めて来年度分の委員許可願いを発行するため、必要であれば、庶務幹事まで連絡いただくよう周知した。

### 2. 令和 2 年度核燃料部会次期体制及び業務分担について (資料 9-1,2)

大堀から、来年度の核燃料部会の体制および業務分担案について説明および提案をし、次の内容について、了承された。

#### ①副部会長の交代および副部会長が担当している業務 (部会等運営委員、代議員、国際活動) について

3/16 の全体会議において、草ヶ谷副部会長が副部会長を退任し、原子燃料工業の大江晃氏が副部会長に交代する予定であることを説明した。また、現在副部会長が担当している業務の担当について、次の通りとすることが了承された。

- ・部会等運営委員は 2020 年 6 月末までは草ヶ谷副部会長に担当してもらい、7 月以降に大江新副部会長に交代する。(6 月に総会が開催されるため、その翌月に交代する)
- ・代議員は来年度も草ヶ谷副部会長に担当していただく。
- ・国際活動担当に関しては、企画小委員会とも関係することから、次期企画小委員会委員長の加藤副部会長が担当する。

#### ②委員の交代、退任について

3/16 に開催される全体会議において、次の委員交代および退任を行うことを説明し、了承された。

- ・京都大学高木委員の退任
- ・東京大学寺井委員から阿部弘亨教授に交代
- ・東京大学名誉教授 山脇委員の退任

また、次の内容については、宇埜部会長および庶務幹事が確認することとなった。これらの内容については、2月中に確認し、必要に応じて、3/16の全体会議に諮ることとなった。

- ・宇埜部会長から、東北大学佐藤委員の委員退任要否について、佐藤委員に確認する。

(2/14 追記：後日、佐藤委員に確認したところ、今年度で委員退任されることとなった。)

- ・庶務幹事から、東京都市大学佐藤勇教授に、運営小委への参加について依頼する。

(2/14 追記：後日、都市大佐藤先生から、運営小委への参加について承諾いただけたため、次回全体会議で委員選任を行う。)

### ③グループ1の国内企画担当の業務について

来年度のグループ1(大学)の国内企画担当となる黒崎委員に次の業務を担当していただくこととなった。

- ・企画小委員会への参加
- ・企画セッション提案書の作成等、企画セッション関係の作業

ただし、上記の業務を担当していただく中で問題が生じた場合は、再度業務分担について運営小委で相談することとなった。

## 3. 令和元年度予算の支出予想と令和2年度予算案について(資料2)

大堀から、令和元年度1月末時点の収支実績および令和2年度予算案について紹介した。なお、今年度の収支実績に関しては、1月末時点の支出は29,671円だが、年度末にかけて、HP管理者への人件費および部会賞盾等の製作費で約40,000円程度支出予定であることを説明した。

また、来年度の夏期セミナー予算に関しては、学生の旅費補助を前提に繰越金の取崩(223,000円)を計上しており、既に学会事務局へ提出済であることを説明した。

今年度に関しては、学会全体で単年度の赤字となる見込みであり、今後の予算執行にあたっては年度の途中で急に支出が増えることが無いよう、学会事務局から注意されている旨、宇埜部会長から周知があった。

## 4. 核燃料部会・部会賞(奨励賞、学会講演賞)について(資料3)

篠原国内企画担当から、2019年の核燃料部会奨励賞の選考結果について報告され、次の通り、受賞者を決定することが承認された。

(選考結果)

- ・宇田川 豊 氏 (JAEA)  
軽水炉燃料挙動解析技術の高度化に関する研究

なお、奨励賞の選考は評価票を用いて実施し、各項目の合計が合格評価点以上となっていることを選考基準とした。また、選考はメール審議により実施した。

また、篠原国内企画担当から春の年会の学会講演賞の募集を2月初めより開始した旨、紹介があった。

本件についての質疑は次の通り。

- ・今回の選考結果は応募者にはフィードバックされるのか。  
→奨励賞に選出されなかった方には、評価結果をフィードバックすることとしており、今回も実施する予定である。
- ・奨励賞選考結果が公表されるのはいつとなるか。  
→事前に受賞者にはお伝えするが、公表されるのは全体会議の場となると思う。

#### 5. 企画小委員会の概要について（資料4）

草ヶ谷副部長から、1月15日に開催された企画小委員会の議事録の紹介があった。この中で、来年度の中国で開催予定のWRFPMについて、企画小委員会後に準備状況を確認したところ、新型コロナウイルスによる影響で準備が進んでおらず、延期も含めて検討中であることが周知された。

#### 6. 令和2年度夏期セミナーの開催について（資料5）

草ヶ谷副部長より、令和2年度夏期セミナーの準備状況（プログラム構成等）について報告された。なお、開催場所、日程については、前回運営小委で決定した次の内容から変更はない。

開催場所：石川県七尾市和倉温泉地区 旅館「のと楽」

見学場所：北陸電力 志賀原子力発電所

日程：2020年8月3日（月）～8月5日（水）（2泊3日）

また、プログラム構成に関しては、いくつかコメントがあり、それを踏まえて検討することとなった。プログラム構成に関する主な議論は次の通り。

- ・「米国 ATF 燃料研究」については打診済みということだが、受けていただけそうか。

→DOEの承認が必要となるため、承認されれば受けていただけると思う。なお、本発表の内容は、被覆管ではなく、シリサイド燃料などの燃料開発が中心となる予定である。

- ・開発の進捗状況が大きく違うため、「米国 ATF 燃料研究」のカウンターパートとして、「国内 ATF 開発」をテーマとするのは難しいのではないか。また、秋の大会での発表も控えた時期であることから、国内 ATF 開発をテーマとすると、学会発表と被る可能性がある。

→電中研の尾形氏らに取りまとめていた燃料プラットフォームで、研究アク

ティビティをまとめているため、これをテーマとすればよいのではないか。

- 【事故時燃料ふるまい／事故耐性燃料】のセッションについて、国内外の個別研究や、研究アクティビティを紹介するセッションとしてまとめてもよいのではないか。「燃料デブリ関連」についても、事故進展からデブリまでを対象に研究している方もいるので、そういった個別研究の紹介でも良いのではないか。
- 本セッションの内容については、いただいたコメントを踏まえて再度検討する。
- ・【発電所の取り組み】の福島関連の発表については、来年度のデブリ取出作業が延期となったため、新しい内容を紹介することは難しい。
- ・【学会賞、部会賞受賞講演】について、部会報への掲載依頼も全体会議で行うが、それとは別に講演参加依頼をするということがよいか。  
→それで問題ない。

#### 7. ATOMO $\Sigma$ 連載講座について（資料6）

草ヶ谷副部長より、原子力学会誌 ATOMO  $\Sigma$  への連載講座記事について、現在の状況について報告された。また、今後の対応について、議論し、次の内容が了承された。

- ・連載講座のとりまとめに関しては、加藤副部長にお願いする。
- ・読者ターゲットは学生並びに燃料の専門家でない方とする。
- ・連載講座の構成としては、全体概要（0.5 回分、宇埜部会長が担当）、軽水炉燃料（1.5 回分、PWR/BWR 燃料メーカーが担当）、第四世代炉向け燃料の解説（3 回分、JAEA 等が担当）となった。

本件について、主な質疑としては次の通り。

- ・第四世代炉向け燃料の解説について、金属燃料は電中研、熔融塩に関しては大学の方をお願いするのが良いと思う。  
→今後調整する。
- ・ガス炉用燃料に関しては、NFIの方をお願いできないか。  
→社内の担当に確認するが、実際に記事を担当するにあたっては、JAEAの担当の方と内容を調整することとしたい。
- ・前回(2004年度)の連載講座記事の原稿があれば、連携してほしい。  
→HPから閲覧可能だとは思う。必要に応じて連携する。
- ・第1回、2回の原稿の入稿時期は11月となるのか、それとも9月頃（11月の2か月前）か。  
→11月入稿で問題ない。

- ・軽水炉燃料の記事について、1.5 回分となると、詳細な内容まで記載することは難しいかもしれない。具体的な内容については、メーカー間で今後相談していく。

#### 8. 2020 年春の年会における企画セッションについて（資料 7）

篠原国内企画担当から、2020 年春の年会における企画セッションの準備状況について報告があった。また、当日のセッション構成として、次の内容について了承された。

- ・セッション冒頭に PPT3 ページほどを用いて座長の宇埜部会長から全体概要を簡潔に紹介
- ・BWR/PWR 用燃料開発の講演を行った後に総合討論を行う。総合討論のうち、JAEA による全体総括に関しては、各講演の予稿のうち、今後の課題からあらかじめピックアップしておき、当日の各講演の質疑応答から必要な情報を追記する形で、総合討論用の PPT を作成する。

本件について、主な質疑は次の通り。

- ・セッション全体の時間は 90 分となっているが、宇埜部会長の全体概要紹介についてはどの程度の時間を想定しているか。
- PPT3 ページであるため、2,3 分程度を考えている。

#### 9. フェロー候補者の推薦について（資料 8）

大堀より、核燃料部会からフェロー候補者として次の 2 名を推薦したことを報告した。

- ・尾形 孝成 氏（電中研）
- ・平井 睦 氏（東京電力 HD（元 NFD））

#### 10. 核燃料部会全体会議の準備について（資料 10）

大堀より、3/16 に開催される全体会議について、活動報告等の資料の準備状況について報告した。また、活動報告／活動計画案の内容については、いただいたコメントを踏まえて修正し、全体会議前にメーリングリストで各委員に確認してもらうこととなった。

本件について、主な質疑、コメントは次の通り。

- ・全体会議当日は、大江新副部会長は参加していただけそうか。
- 現時点は参加予定となっている。
- ・表彰式の写真撮影について、どなたかにお願いできないか。
- 部会報関係のロジ作業として、部会報担当（尾家委員）が行う。
- ・全体会議で審議すべき事項は何かあるか。あれば、資料を準備しておく必要がある。
- 今年度は特に審議すべき事項はない。

- ・活動報告の「1.(6)WG,委員会」にジルコネットの記載を追記するのであれば、「1.(7)国際会議、セミナー」のアジアジルコニウム会議の記載は不要ではないか  
→(6)にジルコネットの記載を追記し、そちらにアジアジルコニウム会議の記載を移す。
- ・1.(6)には、FP 研究専門委員会の活動を記載してはどうか。  
→承知した。記載文案については、どなたかに作成をお願いしたい。  
→記載文案については、FP 研究専門委員会幹事に作成を依頼する。  
(2/14 追記：川西委員から FP 研究専門委員会幹事に活動状況について問い合わせ済み。回答があり次第、全体会議資料に反映する。)
- ・1.(7)には、核燃料部会として関係している国際会議、セミナーのみを記載すべきではないか。  
→承知した。その通り修正する。
- ・「5.(3)講演会」は具体的に何を実施する場合に記載するのか。  
→部会主催の講演会を実施する場合に記載するものと思われるが、近年では開催しておらず、例年「未定」と記載している。来年度も予定してないため、活動計画案からは(3)を削除する。
- ・「5.(4)国際会議・セミナー」については、核燃料部会として関係している WRFPM および ANFC のみを記載してはどうか。  
→その通り修正する。  
→NuMat は記載する必要はないか。  
→NuMat は核燃料部会として直接関わっていないため、記載しない。

#### 1 1. 核燃料部会報 55-2 の作成状況について（資料 11）

部会報担当の尾家委員から、部会報 No.55-2 の作成状況について紹介があった。また、No55-2 の記事について、次の内容とすることが了承された。

- ・企画セッションの記事については、セッション座長および講演者の方に執筆を依頼する。
- ・「国際会議紹介」の記事は No55-2 では無しとする。
- ・国際交流ニュースについては、JAEA の外国人研究者の方に執筆依頼する。  
(2/14 追記：JAEA の Hai Pham 氏に記事を執筆していただくこととなった。)

- ・会員近況については、今年度推薦したフェロー候補者の 2 名に依頼する。  
(2/14 追記：後日、2 名から記事執筆について快諾していただいた。)

## 12. その他

### (1)核燃料部会のホームページの修正について（資料12）

広報（HP 担当）の原田委員から、今後の部会 HP 更新内容について説明があり、了承された。主な更新内容としては、これまで更新が滞っていた「部会長挨拶」や「全体会議議事録」等について、最新の情報に更新する。

### (2)次回運営小委員会について

次回の運営小委員会（令和2年度第一回）は、2020年5月15日に開催予定。

以上